

診 療 用 エ ッ ク ス 線 装 置 備 付 届

年 月 日

(あて先) 京都市長

所在地 〒

名 称

電話

管理者氏名

Ⓜ

下記のとおり診療用엑스線装置を備えたのでお届けします。

記

1 엑스線装置に関する事項	制作者名			
	型式			
	連続	管電圧 _____ kV, 管電流 _____ mA		
	定格出力 短時間	管電圧 _____ kV, 管電流 _____ mA, 時間 _____ 秒		
	蓄放式	管電圧 _____ kV, 静電容量 _____ μ F		
	台数			台
	엑스線管球			個
用途				
2 エス診療名 ツる療エ等 ク医放 ス師射 線・線ス 診歯技線 療科師技 に医又師 従師はの 事・診氏	氏名	年令	職 種	엑스線診療に関する経歴
3 備付時期	年 月 日			
4 엑스線装置の엑스線障害防止に関する構造設備の概要 (平成14年3月27日厚生労働省令第44号「医療法施行規則の一部を改正する省令」による改正後)				
共通	엑스線管容器及び 照射筒漏えい線量	定格管電圧50kV以下の 治療用엑스線装置	(엑스線装置の接触可能表面から5cmの距離において) 1. 0mGy毎時 以下 ・ 超	
		定格管電圧50kV超の 治療用엑스線装置	(焦点から1mの距離で) 1.0mGy毎時 以下 ・ 超 かつ (엑스線装置の接触可能表面から5cmの距離において) 300mGy毎時 以下 ・ 超	
		定格管電圧125kV以下の口 内法撮影用엑스線装置	(焦点から1mの距離で) 0.25mGy毎時 以下 ・ 超	
		コンデンサ式엑스線 高電圧装置	(充電状態で照射時以外の時, 接触可能表面から5cmの距離で) 20μGy毎時 以下 ・ 超	
		上記以外の엑스線装置	(焦点から1mの距離で) 1. 0mGy毎時 以下 ・ 超	
	附加濾過板	定格管電圧70KV以下の口 内法撮影用엑스線装置	有 ( _____mmアルミニウム当量) ・ 無 (ただしアルミニウム当量1.5mm以上のこと)	
		定格管電圧50KV以下の 乳房撮影用엑스線装置	有 ( _____mmアルミニウム当量又は _____mmモリブデン当量) (ただしアルミニウム当量0.5mm以上又はモリブデン当量 0.03mm以上のこと) 無	
		上記以外の엑스線装置及び 輸血用血液照射엑스線装置, 治療用엑스線装置	有 ( _____mmアルミニウム当量) ・ 無 (ただしアルミニウム当量2.5mm以上のこと)	

透視	透視中の患者への入射線量率 (患者の入射面の利用線錐の中心における空気カーマ率)	50 mGy 毎分	以下	・	超	
		(操作者の連続した手動操作のみで作動し、作動中連続した警告音等を発する高線量率透視制御装置がある場合)				
用	タイマー (透視時間が積算でき、かつ、透視中において一定時間が経過した場合に警告音等を発することができるもの)	有	・	無		
エ	焦点皮膚間離隔装置 (30 cm) (ただし手術中に使用するエックス線装置の焦点皮膚間距離は20 cm以上)	焦点皮膚間離隔装置	(有	・	無)	
		又は 30 cm未満で照射することを防止するインターロック (有				
ック	エックス線照射野しぼり装置 (焦点受像器間距離において、受像面を超えないようにエックス線照射野をしぼるもの)	有	・	無		
ス		(ただし欄外<注>の事項に合致する場合は、受像面を超えるエックス線照射野を許容するもの)				
線	利用線錐中の蛍光板、受像器を通過したエックス線の空気カーマ率 (接触可能表面から10 cm)	150 $\mu$ Gy 毎時	以下	・	超	
	透視時の最大受像面を3.0 cmを超える部分を通過したエックス線の空気カーマ率 (接触可能表面から10 cm)	150 $\mu$ Gy 毎時	以下	・	超	
	利用線錐以外のエックス線を有効にしやへいするための適切な手段	有	・	無	(その内容: )	
装	エックス線照射野しぼり装置 (CT除く) (焦点受像器間距離において、受像面を超えないようにエックス線照射野をしぼるもの)	有	・	無	(ただし欄外<注>の事項に合致する場合は、受像面を超えるエックス線照射野を許容するもの)	
	口内法撮影用エックス線装置	照射筒の端における照射野の直径 6.0 cm 以下				
	乳房撮影用エックス線装置 ※ 右欄の数値をいずれも超えないこと	エックス線照射野について患者の胸壁に近い患者支持器の縁を超える広がり 5.0 mmを超えない 受像面の縁を超える照射野の広がり 2%を超えない				
置	焦点皮膚間距離 (骨塩定量分析エックス線装置を除く)	定格管電圧が70 KV以下の口内法撮影用エックス線装置	15 cm	以上	・	未満
		定格管電圧が70 KV超の口内法撮影用エックス線装置	20 cm	以上	・	未満
		歯科用パノラマ断層撮影装置	15 cm	以上	・	未満
		CTエックス線装置	15 cm	以上	・	未満
		乳房撮影用エックス線装置	20 cm	以上	・	未満
		上記以外のエックス線装置 (移動型・携帯型エックス線装置を除く)	45 cm	以上	・	未満

<注> 受像面を超えるエックス線照射野を許容する場合

- ① 受像面が円形でエックス線照射野が矩形の場合において、エックス線照射野が受像面に外接する大きさを超えないとき。
- ② 照射方向に対し垂直な受像面上で直交する二本の直線を想定した場合において、それぞれの直線におけるエックス線照射野の縁との交点及び受像面の縁との交点の間の距離の和がそれぞれ焦点受像器間距離の3パーセントを超えず、かつ、これらの交点間距離の総和が焦点受像器間距離の4パーセントを超えないとき。

胸部集検用間接撮影装置	エックス線照射野しぼり装置（角錐型照射筒） （ただし欄外<注>の事項に合致する場合は、受像面を超えるエックス線照射野を許容するもの）		有	・	無	
	受像器の一次防護しゃへい体 （装置の接触可能表面から10cmにおいて空気カーマが1.0 $\mu$ Gy/1ばく射以下）		有	・	無	
	被照射対周囲の箱状しゃへい物 （防護物から10cmにおいて空気カーマが1.0 $\mu$ Gy/1ばく射以下）		有	・	無	
治療装置	インターロック （近接照射治療装置を除く）		有	・	無	
5 エ放開 射線 線害 線害 造診 の設 療防 室止 の概 要	画し 壁や 等へ のい	画壁の外側での実効線量		1 mSV/一週間 以下 ・ 超		
		操 作 室		有 無（理由：）		
	エックス線装置使用中表示装置		有	・	無	
	エックス線診療室である旨を示す標識		有	・	無	
6 放 射 線 障 害 の 防 止 に 関 す る 予 防 措 置 の 概 要	管理 区 域	管理区域の設定		別添平面図のとおり		
		管理区域の標識		有	・	無
		立入制限装置（扉・フェンス等）				
	注 意 事 項 の 掲 示 、 他	注意 事項 の 掲 示	患者あて		有	・ 無
			従業者あて		有	・ 無
		敷地内居住区域の線量		250 $\mu$ SV/3ヶ月 以下		・ 超
		敷地境界の線量		250 $\mu$ SV/3ヶ月 以下		・ 超
入院患者（放射線治療患者を除く） 被ばく放射線の実効線量が1.3mSV/3月以下となる障害防止装置						
放射線診療従事者の被ばく線量測定器						

<注> 受像面を超えるエックス線照射野を許容する場合

- ① 受像面が円形でエックス線照射野が矩形の場合において、エックス線照射野が受像面に外接する大きさを超えないとき。
- ② 照射方向に対し垂直な受像面上で直交する二本の直線を想定した場合において、それぞれの直線におけるエックス線照射野の縁との交点及び受像面の縁との交点の間の距離の和がそれぞれ焦点受像器間距離の3パーセントを超えず、かつ、これらの交点間距離の総和が焦点受像器間距離の4パーセントを超えないとき。

#### 添付書類

- 1 隣接室名、上階及び下階の室名並びに周囲の状況を明記したエックス線診療室の平面図及び側面図  
（管理区域及び同区域の標識の位置を明示すること。また、照射方向、エックス線管から画壁等の外側までの距離並びに防護物の材料及び厚さを記入すること。）
- 2 エックス線診療室漏えい線量測定結果  
（画壁等の外側の1cm線量当量率については、画壁等の外側の最も近接した点で通常の使用状態において測定し、記入すること。また、測定責任者の所属、職、氏名を記入すること。）